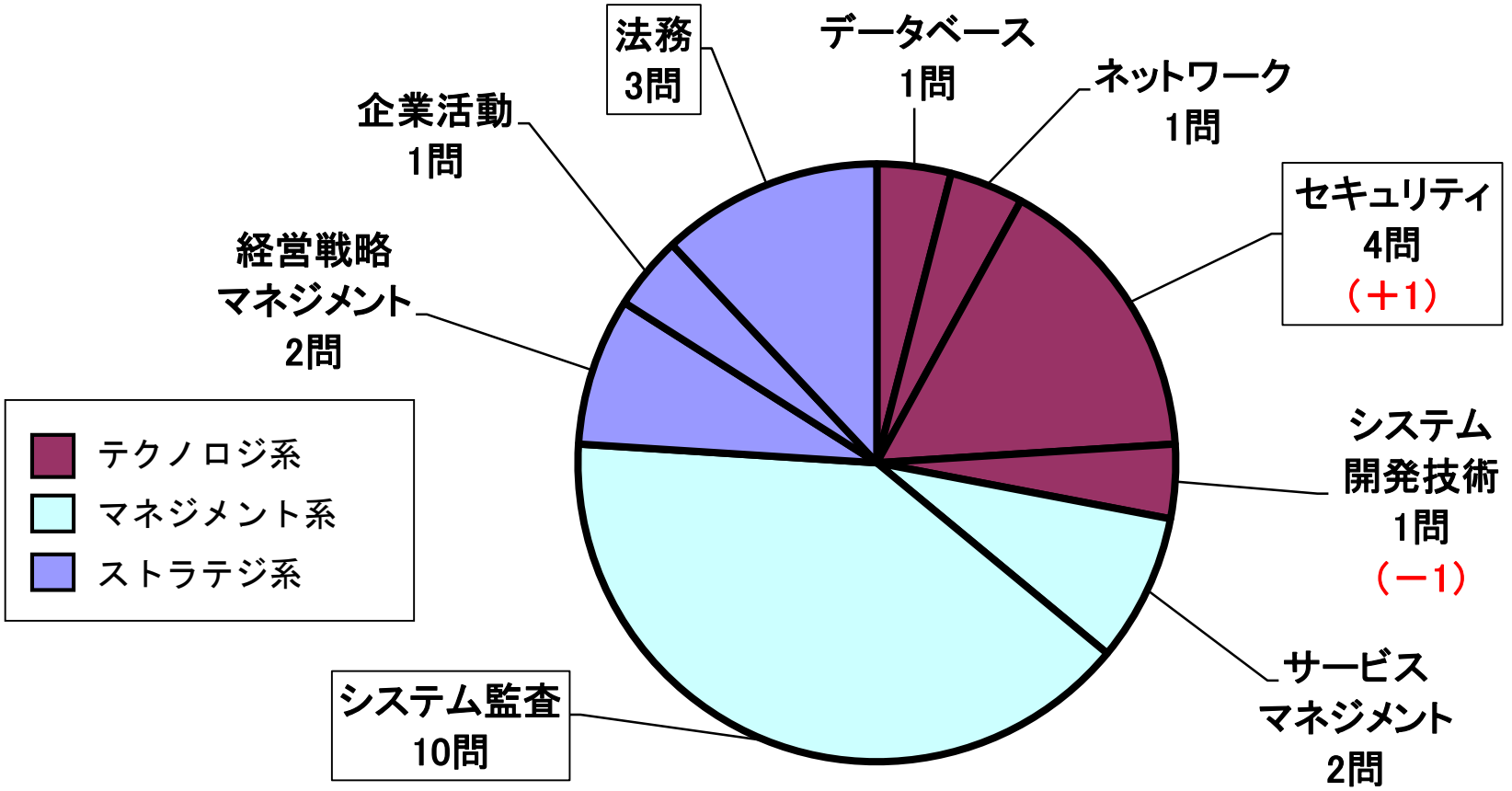
令和2年度　10月試験
システム監査技術者（AU）
出題傾向分析

TAC株式会社

AU　午前Ⅱ　分野別出題数

- 「セキュリティ」が重点分野に加わり，4問出題。
- 「システム監査」と「法務」は例年通り。



AU　午前Ⅱ　特徴と難易度

- 新システム監査基準・管理基準（H30年改訂）から3問
  - 新基準特有の知識は問われておらず，影響は小さい
  - 前回ほど重点が置かれていない（前回は6問）
- 「セキュリティ」が重点分野になり，3問から4問に増加
  - レベル4に上がったが，高度な技術を問うのではなく，我が国の「セキュリティ政策」面が重視された
    - NISC（内閣サイバーセキュリティセンター）
    - サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク
- 後半に他区分の過去問題が多く，難しく感じるが，AU区分では毎度のこと（例年通り）
  （専門の「監査」の出題が少ないので他区分より得点しづらい）

⇒　午前Ⅱ全体としては標準的

AU　午前Ⅱ　主な新テーマ

- 新規問題の目新しいテーマ
  SLAを作成する際の検討順序，VRIO分析，
  職務発明に基づく特許の取扱い（特許法），
  公開鍵基盤におけるCPS，
  サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク
- 他区分の過去問題からの目新しいテーマ
  NISC（内閣サイバーセキュリティセンター），フェアユース，
  カークパトリックモデルによる教育効果の測定

知らないと手も足も出ない問題も出るが，焦りは禁物

・情報処理技術者試験には，ITに関わる技術者が今知っておくべき事柄を，出題することで広く啓蒙する役割もある
・60点取れば合格。解ける問題を着実に得点していこう

AU　午後Ⅰ　特徴と難易度

- 午後Ⅰ全体
  - 3問とも，企業経営の視点からの出題
    - 問1　デジタル経営構想の推進状況の監査
    - 問2　経営戦略に基づくシステム監査計画の策定
    - 問3　システムの投資効果検証手続の監査
  - これからの監査で必要となる視点からの出題
    - DX，AI，チャットボットなど最新技術を採用したシステム
    - ITガバナンスの実現，PoC（概念実証）の実施
  - 問題4ページ，解答数は5～6つに揃えられている
  - 解答ポイントを絞り込むことが難しい設問が多い
    - 採点の幅次第で得点が大きく変わる，手ごわい問題

⇒　午後Ⅰ全体としてはやや難

AU　午後Ⅰ　各問題の特徴と難易度（1）

- 問1　デジタルトランスフォーメーション推進PJの監査
  - “デジタル経営構想”の監査
  - 最新の技術や考え方の採用
    - DX，チャットボットなどのAI技術，PoC（概念実証）
  - 会話形式の問題文（AUでは珍しい）
  - 解答のまとめ方・表現に悩む設問あり　⇒ やや難

PM午後Ⅱでも出題！

- 問2　システム監査計画
  - 監査業務そのものを題材にした問題
    - 中長期計画→年度計画→個別監査計画　の順に詳細化
    - 監査対象の選定，監査要員の教育，監査用ソフトウェアの活用，監査業務の効率化　⇒ 標準的

AU　午後Ⅰ　各問題の特徴と難易度(2)

- 問3　システムの有効性の監査
  - IT投資計画に関するITガバナンスの監査
    - 投資して開発したシステムが十分に使われているかを評価
    - 「新システム管理基準」で定義されたITガバナンスの実践
  - 解答ポイントを絞り込みづらい設問が散見
    - 何を，どれくらい具体的に答えればよいかに迷う

⇒ やや難

AU　午後Ⅱ　特徴と難易度

- 3年連続で新技術などのトピックテーマが出題
  - H30年：アジャイル開発，H31年：IoT，R2年：AI

- 監査対象とするシステムが変化
  - 2問とも，新技術を導入した今話題のシステムが対象
  - 採用された技術の特徴を踏まえた監査ポイントを述べる必要がある

- セキュリティの視点からの出題なし

⇒午後Ⅱ全体としては標準的～難

AU　午後Ⅱ　各問題の特徴と難易度（問1）

- 問1　AI技術を利用したシステムの企画・開発に関する監査について

  設問ア：AI技術を利用する目的，AIシステムの概要

  設問イ：AIシステムの利用段階で想定されるリスク

  設問ウ：企画・開発段階において実施すべき監査手続

  – リスクの例が複数挙げられヒントになっているが，AIの実務経験がないと具体的な論述は難しい

  ⇒　難

AU　午後Ⅱ　各問題の特徴と難易度（問2）

- 問2　IT組織の役割・責任に関するシステム監査について
  - 設問ア：IT組織の現状の体制及び役割・責任の概要，影響を及ぼすIT環境の変化
  - 設問イ：IT環境の変化に対応して変更すべき役割・責任，役割・責任の変更によって新たに発生するリスク
  - 設問ウ：リスクに対応するための具体的な対応策，その取組状況を確かめるための監査手続と留意事項

– 問2もAI，IoTなどの新技術を導入したシステムが前提

– 「変化」がテーマ

・ 新技術の導入や外部サービスの利用など，IT環境が変化

→ IT組織のありかたや監査の視点も変化

⇒　標準的

TAC公開模試でも出題！

AU　今後の対策

- 午前Ⅱ
  - 「システム監査」：新基準の内容を押さえておく
    - システム監査基準，システム管理基準　（H30年改訂）
    - 財務報告に係る内部統制監査の基準　（R元年改訂）
  - 「法務」：近年改正された法律やIT関連法は要チェック！
    - 著作権法，労働基準法，労働者派遣法，個人情報保護法，電子帳簿保存法，特定商取引法　など
  - 「セキュリティ」：他区分の過去問題も見ておこう
    - 応用情報（AP），支援士（SC）などから出題されている。
    - AUでは技術知識よりも，セキュリティにまつわる世の中の動向や政策，管理面が出やすい。

AU　今後の対策

- 午後Ⅰ
  - 主要3テーマについて過去問題演習を
    - システム開発関連の監査，業務処理統制の監査，情報セキュリティ監査
  - 新技術がいち早く取り上げられるので，知識を得ておく
    - AI，IoT，ビッグデータ，RPA，テレワーク，マイナンバー，サイバーセキュリティ，クラウドセキュリティ　など

- 午後Ⅱ
  - さまざまな題材での論述演習を
    - リスク，コントロール，監査手続の対応をとることが重要
  - 新技術に対する監査の事例を準備
    - その技術に特有のリスクを知り，監査ポイントを想定しておく